

公益財団法人 市民防災研究所
財団設立30周年記念誌



私たち市民の一人一人が
震災や火災から命と暮らしを守るため
身のまわりを見直して 工夫と実行を



30th

Commemorative magazine



ご挨拶

公益財団法人 市民防災研究所

理事長 白谷 祐二

昭和56年4月1日、財団法人市民防災研究所が設立されて以来、ここに設立30周年を迎えることができましたことは、誠に喜びに堪えません。

当研究所は、発足以来、市民の目線に立った防災の普及啓発活動をはじめ、災害被災地調査や初期消火実験などの調査研究、防災用品等の研究開発などを実施してきました。

このように様々な事業を推進できましたのは、ひとえに多くの支援者の深いご理解とご支援・ご協力の賜であると共に、東京消防庁をはじめとするご当局皆様のご指導の賜と存じ、衷心より敬意と謝意を表する次第であります。

この30年を顧みますと、発足前から避難研究所としてすでに活動しておりましたが、発足後は公益法人として、関係機関の協力も得ながら火災実験や初期消火実験などを繰り返し実施し「体験して学ぶ」こと、また、災害が起きれば国内のみならず世界で起きた災害被災地にまでもすぐに関わり「被災地に学ぶ」ことを重視した活動をしてまいりました。このような調査研究の成果をもとに、多くの市民に防災の普及啓発を行ってきたことにより、微力ながらも市民の防災意識の高揚と防災力強化に寄与できたものと存じます。

当財団は、国の公益法人制度改革により設立31年目のスタートとなる平成24年4月1日、公益財団法人市民防災研究所として新たにスタートいたしました。

今後も、火災、地震、水害等の災害から市民一人ひとりが命と暮らしを守るため、市民の防災意識高揚と防災力強化のために、さらに工夫と研究を重ねつつ、支援者と共に次の節目に向かって前進を続ける所存であります。

この記念すべき設立30周年にあたって、当研究所の発展にご協力を賜りました関係者の皆様に重ねて御礼申し上げ、併せて今後とも旧に倍するご指導ご鞭撻とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



祝 辞

東京消防庁

消防総監 北 村 吉 男

このたび、公益財団法人市民防災研究所におかれましては、創設30周年という意義深い節目の年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

社会情勢が大きく変化する中であって、着実にその歩みを進め、記念すべき年を迎えられましたのも、創立者の籾野次郎様、初代理事長の味岡健二様はじめ、役員並びにスタッフの皆様のご尽力の賜物であり、これまでの貴研究所での市民の立場にたって発想された様々なアイデアによる、防火防災普及活動に対しまして、心から敬意を表します。

さて、東京消防庁では、東日本大震災で得た教訓をもとに、長周期地震動における室内安全対策、木造住宅密集地域における消防対策、帰宅困難者対策、津波・高潮に対する避難対策及び災害時要援護者対策など、関係行政機関との連携を密に、総合的な防災対策を強力に推進しているところであります。

これらの対策を推進し、住民自身に知識や技術として定着させ、防災行動力を向上させるためには、行政の力だけでは不十分であり、住民自らの力による実践力が必要不可欠であります。

貴研究所が推進している住民自身が地震等の災害から身を守るための研究と住民目線の発想に基づく防災普及活動、さらには地域に根ざした防災力強化への情熱は、当庁はじめ防災関係機関にとって誠に心強いものであります。

今後とも、安心・安全な都市生活を守り、高度防災都市の実現に向かって、防災に対する正しい知識と実践的な技術の普及と住民の防災意識の更なる高揚のため、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、30周年の節目を佳節とされ、今後も、地域防災力の向上についての素晴らしい取組を継続していただきますようお願い申し上げますとともに、貴研究所の益々のご発展をご祈念申し上げます。